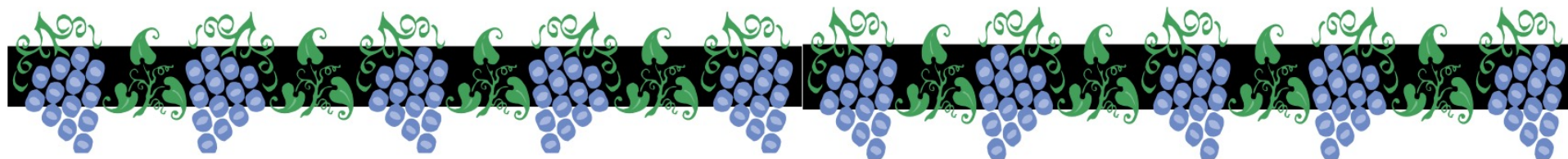


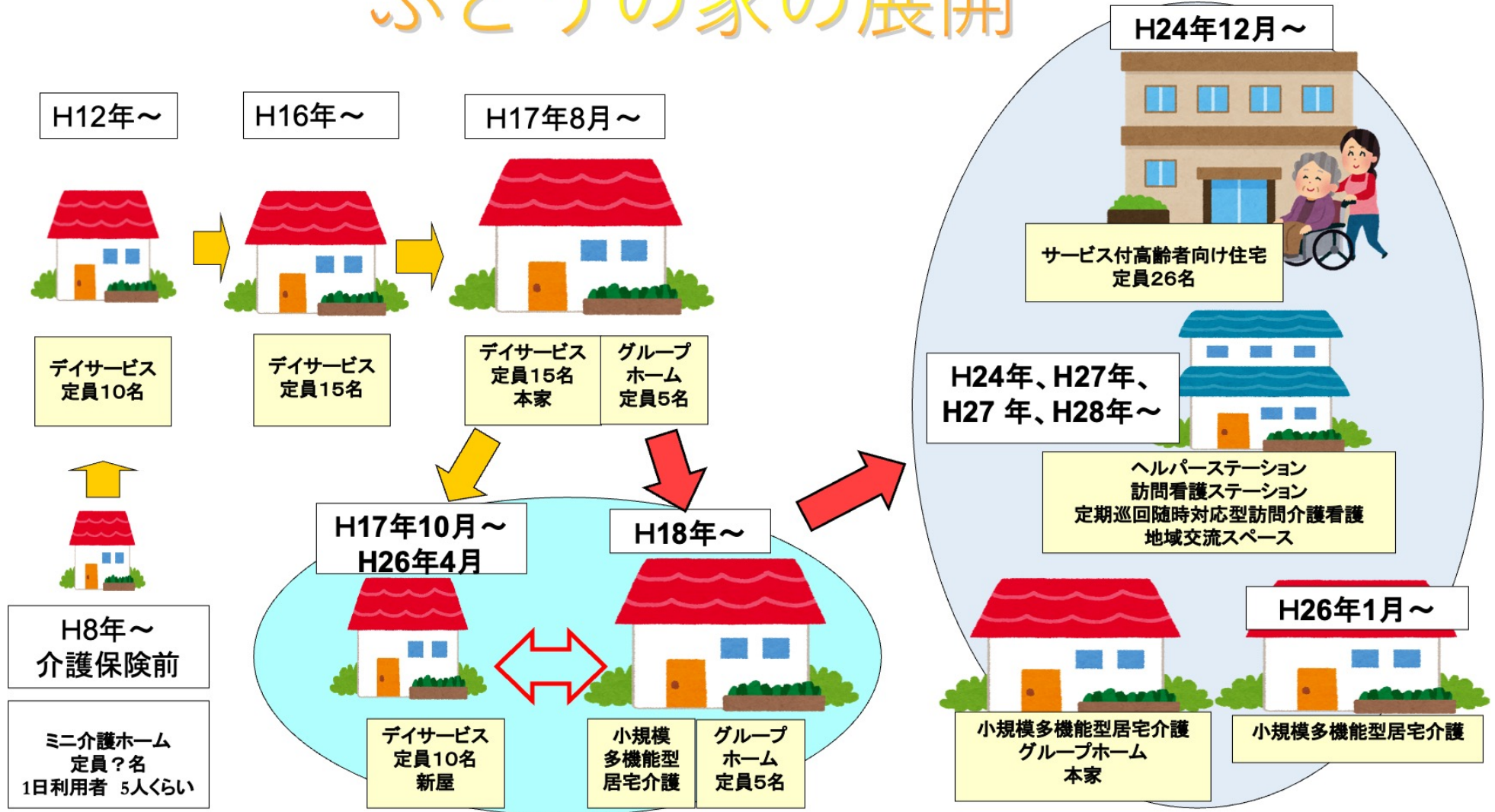
小規模多機能ホームぶどうの家真備の 災害対応とサツキPROJECT



日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部
「災害医療から防災に備えるハコ・マチ・ヒトづくり学習会」

小規模多機能ホームぶどうの家真備（岡山県倉敷市）
津田由起子

ぶどうの家の展開



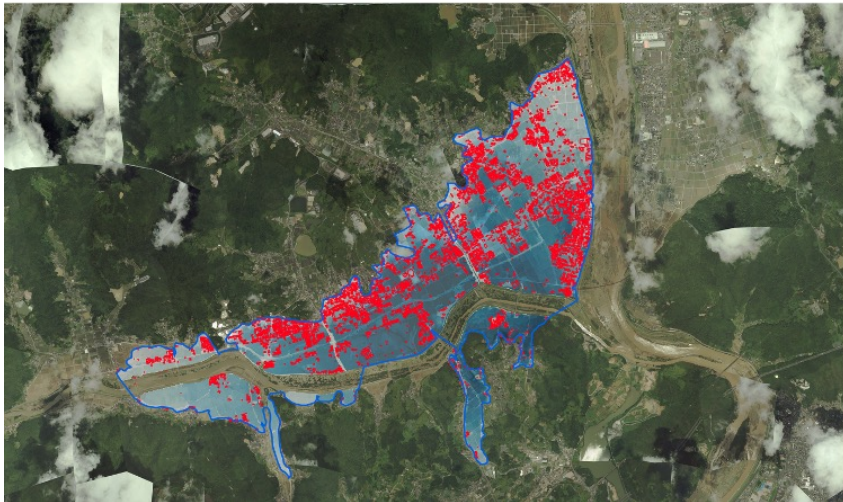
被災（2018年7月西日本豪雨）前

「雨が降るけど、晴れの国岡山だから、大丈夫」

「岡山県は災害の無いことで有名だから大丈夫」

と根拠のない自信を持ち、備えはしていなかった。

ハザードマップは事業所に貼ってあったけど・・・



年2回の避難訓練（昼と夜の想定）は行って
いたが「

水害は考えていなかった。

地震は建物から外に出るのみ

どっぷり浸かっている箭田地区



被災当日

- 7月6日職員は手分けして、利用者さん宅を回りどうするか相談
- 泊り希望者が無かったので、9時ごろ全職員が退社
- 家に帰ってから、携帯アラームが鳴り響き、アルミ工場の爆発
- 夜明けを待って、総社市内の事業所やクリニックから必要物品をもらい真備に向った。状況はさっぱり把握できていなかった
- 必要物品が何かわからなかったが、過去に受けた研修「東北の被災を経験した事業所の話」を思い出して
- 職員と合流して利用者さんのところへ向かった。
- 一番重度の方が避難していた山の上いき、総社市内のクリニックに受け入れをお願いした。
- 誰を優先するか、どこに避難するか・・・

菌小学校に行こう

- 高馬川？末政川？右岸決壊？
職員も避難している！
- 菌小学校、二万小学校、岡田小学校が
指定避難所だとネットで調べた。
- 岡田小学校はアルミ工場爆発被害があっただろう。菌地区なら
これまでのつながりから助けてもらえるかもしれないと思った。
- 利用者さん宅を回り避難の声掛けをした。
- ほぼ全員避難を嫌がった。
いつも通り・・・説得・・・無理やり
- いつ、どこへ、どうやって避難するのか何も決めていなかった
- 災害想定もできていなかった



被災直後7月から10月

- 「避難所で困っている方は受け入れます」と発信した。
- 福祉的避難所のような場所になっていた。
- 真備にこだわるしかなかった。
- 避難所に配られる弁当を持って訪問した。
- 支援者による送迎で温泉に行けた。訪問入浴車が来た。
- 在宅を知っている私たちは、施設や設備が乏しくとも暮らしを支える術があった。



菌公民館分館の様子



何が正解かはわからないけれど、いつもの顔ぶれでいつものケアに近く安心できた。

- 福祉避難所とは認められなかったが、実際に被災した時には日頃を知っているサービス事業所が福祉避難所となれば、復旧時に在宅復帰がより可能になると思った。



たくさんの方々に助けていただいた。。。感謝

公民館から仮設事業所へ11月から2月

- いつまでも公民館に居られない無言のプレッシャー
- みんなつくとのお会い
- 被災した倉庫をリフォーム（台所と風呂をつけて）
- 事業としては1日も休まなかった（事業継続？）

被災から8月後の3月に元の場所に再建できた





2019.3.1 箭田に戻りました！



ありがとうございます



公民館から仮設事業所へ11月から2月

- ぶどうの家BRANCHは地域の方々への恩返しの場に
- 救えなかった命・・・後悔
- 安心して暮らすには住居コミュニティが欠かせない



B.B.を活用し、真備がもっと元気になる！



オレンジボランティア



ぐい真備（飲み会）



宿題大作戦



味噌汁ご飯の会



お祭り



住まいの勉強会

第1回
住まいについて考える！

これからの私たちの住まいと暮らしについて、専門家を交えて一緒に考えてみませんか？

H30年11月11日（日）14：00～
SOSU IN 真備

開催場所：ふどうの家BRANCH（B.B.） 真備町辻田197

講師：防災まちづくりの専門家 藤打さん（香川大学）
在宅医療の専門家 後野さん（あさのクリニック）
建物・住まいの専門家（調整中）

お申し込み不要、当日直接会場にお越しください。

11時～16時 かんぽで焼き出しを食べよう
生活福祉の0円フリーマーケット
まほろの無料開放 16時～20時半まで
*2階については毎日開催

お問い合わせ：TEL:086-897-5255 FAX:086-897-5256
ふどうの家BRANCH（B.B.）

サツキPROJECTとは？



「ちょっと困った」を
 ちょっとならぬ得
 ささえあいの
 仕組み・暮らし
 方

誰もが... いて、いつ
 も何かはじまる。
 ちょっとの楽しみもちょうと不安
 も共有できる。

いきる つながる つたえる
 つどろ ひらく

仏 51人（直接死）の犠牲を伴った西日本豪雨災害からの復興。誰もが尊厳をもった生活を取り戻すための「住まい・生活」を再建。

互 災害の教訓を目に見える形で、住まい方で伝え、次世代へつむいでいく。

「水害に強いまち」のシンボルとして、避難機能付き共同住宅がサツキが花開くように全国に普及していく。

- 災害に強い建物と地域のきずなを大切に、気かけあった暮らしの両方を備えた暮らし方は、今後の超高齢化社会のモデルに。
- 避難所機能付き住宅（ハード）と暮らし方のスタイル（ソフト）の両方が大切。
- 被災者は支援を受けるだけでなく自らもできることがあるとともに地域を作る協働者である。まずは真備に1棟。
- そこから倉敷市全体に、そして日本全国のモデルに。
- 人口の70%が災害の危険性のある地域に暮らしている日本だからこの考え方を広めたい。

朝刊・2019年08月08日(木)

共同住宅に避難部屋

昨夏の西日本豪雨で浸水被害を受けた倉敷市高備町地区で、住民有志が香川大特命准教授と連携し、身近な避難先を確保するプロジェクトをスタートさせた。第1弾として、被災した建物を改修し

高齢者ら災害弱者が逃げ「避難機能付き共同住宅」3月にオープンさせる4居室をリーススペースし、地域の絆づくりを考えた。〔日村正純

西日本豪雨

有志ら計画

避難機能付き共同住宅

高備町地区で介護施設を地域防災に詳しい磯打千雅運営する津田由起子さん、子・香川大特命准教授と連携（54らのグループ）豪雨後、師に招き、防災・減災を準備

SNS、ウェブシンポジウム

被災建物改修 災害弱者を想定

来春オープン

「サツキPROJECT」は水や

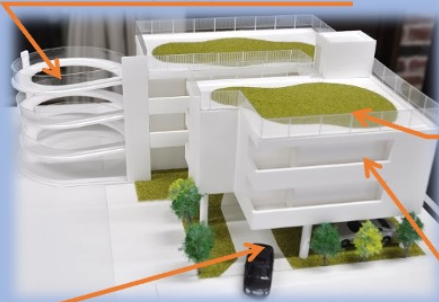
津田さんは「西日本豪雨車いす利用者を想定してで浮き彫りになった課題をスロップを取り付け、は、スムーズに動けない人他の7室は避難者へのサをいう避難させるか、共同ポートに理解がある世帯、住人の整備を通じ、地域のサポートに貸し出す。住人の整備を通じ、地域の実情にあった方策を住民相互で見つけた」と話している。併せて住宅のいる。その中で、高齢・障開き、万の時に避難部屋被害や妊婦らにとって避へ待避してもらう人を含め難先は自宅近くが理想的たり、リーススペースとして、環境の変化に伴って活用方法を検討したりすで、軽減できるを考。改修費用は自己資金や、機打准教授と連携し、助走定。グループによる、共同住宅の整備に動く取組は検討中だが、リーススペースの活用などで育んだ人間関係を生かし、「コミュニティによる」地区防災計画として、全8室の階画一づくりに乗り出したいの1室（3K）には水や、食料を30分程度で準備。津田さんは「西日本豪雨車いす利用者を想定してで浮き彫りになった課題をスロップを取り付け、は、スムーズに動けない人他の7室は避難者へのサをいう避難させるか、共同ポートに理解がある世帯、住人の整備を通じ、地域のサポートに貸し出す。住人の整備を通じ、地域の実情にあった方策を住民相互で見つけた」と話している。併せて住宅のいる。」

©山陽新聞社 無断複製転載を

避難機能付き共同住宅（ハード）

住まいの勉強会参加者の意見でできた
避難機能付き共同住宅プラン

屋上まで直接スロープ



屋上に炊き出し設備、数十人が最低3日は建物の
中で過ごせるだけの備蓄

電気設備は3階で2階
(浸水高) 以上に住まい

1階はコミュニティルームとし、日頃から地域住民が
交流できる

この計画を知った住民から、「2階は無事だったが
1階は沈んだアパートを利用してほしい」



被災したアパートの改修プラン

2階のベランダまでスロープにリフォーム、近所の逃げ遅れた方へ安全
のおすそ分け



コミュニティルーム
兼地区の防災拠点

近所と話し合っってプランを
検討。リフォームは、真備
で活動中の建設系ボラン
ティアや地域の大工見習の
方と協力して実施。

コミュニティルームの利活用（平時・災害時）は近所の住民と共に作
り上げる（備蓄内容なども）

- 入居者は支えあう生活や災害時には自宅が避難所になる可能性があることを理解して入居できる人が条件。
- 2階には子育て世代の家族の入居を目指す※高齢者障害に限定していない。

【質問1への回答】

家賃は倉敷市の生活保護住宅扶助基準相当の35,000円の予定

住まい住環境整備事業（国交省）とクラウドファンディングで実現



災害があっても「ただいま」と言える真備町に。
コミュニティ型の共同住宅をつくります。

故郷にこれからも帰られるように。真備町から発信する、防災の家。

クラウドファンディング
挑戦中！

2018年7月、ここ真備町は水に沈みました。町民の59名が命を落とし、私たち住民は「大切な人」「住まい」「コミュニティ」を失ったのです。もうこんな悲しみは繰り返さないために、何かあったとき同じ建物の浸水しないうちに垂直避難ができ、そしてまた帰ってこられる避難機能付き共同住宅をつくりたいと思っています。1階はコミュニティルームやコンドニ、塾など、書院から自由に地域の方々が使えるスペースとして使用し、水の来ない高さの2階以上を住まいとして設けます。スロープを設置し、車椅子でも楽に移動ができるよう、バリアフリーな設計の予定です。

目標金額:200万円 募集終了日:12月25日 23時まで

募集終了日までに目標に達しなかった場合、全額返金しなければなりません。みなさまの温かいご支援をよろしくお願いたします。



3000円からご支援可能です

ご支援をいただいた方には、感謝を込めたお礼のメール、真備のおばちゃん連特製の「まびーちゃん」、プレートにお名前前の記載、イベントご招待など、さまざまなリターンをご用意しております。
※リターン不要のコースもございます。

クラウドファンディングとは

自分の思いを企画し、共感していただいた多数の支援者からインターネット上で資金を募る仕組みのことを言います。地方公共団体や学校などでもクラウドファンディングが活用され、広がっています。

♪ ご支援はこちらから♪

「レディーフォー サツキプロジェクト」で検索
<https://readyfor.jp/projects/gogosatsuki>

クラウドファンディングサイト
Readyforでのご支援方法

※10月28日公開※
①ご支援リターンを選択
（アカウントがない場合は、新会員登録からお申し込みます。）
②お支払方法を選択
（クレジットカードもしくは銀行振込）
③お振替番号をご入力完了
※スマホからでも可能です

寄付のお願い

伝えるお願い

今こそ！サツキPROJECT！ 安心安全な暮らしを真備から 全国に発信したい。

お問い合わせ

サツキプロジェクト実行委員/ぶどうの家代表 津田由起子

インターネットでのメール: info@budounoie.co.jp

〒764-0001 徳島県美波町 電話: 087-608-1999

被災体験から学ぶ～後世へのメッセージ～

小規模多機能ホーム「ぶどうの家」代表

津田 由起子さん



【高画質】平成30年7月豪雨 被災体験から学ぶ～後世へのメッセージ～
その3

65 回視聴・2021/07/02

👍 3 💬 0 ➦ 共有 ≡+ 保存 ...

避難機能付き共同住宅（ソフト）

日頃から気にかけてあった暮らしの実現



2022年1月1日サツキアパートにて

住民同士で生活を支える仕組み



助け隊・ありが隊



あなたの「困ったな」と、誰かの「ちょっと手伝うよ」をマッチングする有償ボランティアの仕組みです。▼ひとりの人が、「助け隊」になってサービスを行う時があれば、「ありが隊」になってサービスを利用することもあります。▼助け合う仕組みがあることで、一人でも多くの方が真備に帰って来ることができたらいいと思います。





パン焼き教室



おいでのサイン



灯り

内閣総理大臣賞表彰

体操の会



地域連携型マイタイムライン



- 一人では避難しない、できない、ためらう気持ちを理解し合う。
- 一事業所ではどうしようもない
- 私たちは一人ではない！
- 「助けて」と言える関係性が必要。

マイタイムライン (個別避難計画)			
本人(氏名):	家族	近所	組織 (会社・施設・ケアマネ等)
住所: 〒 〇〇〇〇 〇〇-〇〇 〇〇	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)	名称: 名称: (- -)
携帯:(- -)	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)	担当者:
いつもいる場所(昼 夜)	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)	
避難リュックの置き場所()	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)	
<input type="checkbox"/> 人暮らし <input type="checkbox"/> 高齢者世帯 <input type="checkbox"/> 障害者 <input type="checkbox"/> 小学生以下	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)	
自宅の危険性 <input type="checkbox"/> 浸水 <input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 地震	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)	
<input type="checkbox"/> テレビなどで大規模の地震を知る <input type="checkbox"/> 車を余分にもらって置く <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 大規模地震を伝える <input type="checkbox"/> 車を確認する <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 大規模地震を伝える <input type="checkbox"/> 車の準備の声掛け <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 避難可能場所の把握・共有 (L3以降) <input type="checkbox"/> L3以降) <input type="checkbox"/> 避難所準備
<input type="checkbox"/> いつ避難するか相談 相談する人()	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認) <input type="checkbox"/> () 対策本部立ち上げ
<input type="checkbox"/> 家族・近所ら避難準備状況を確認 <input type="checkbox"/> 避難先を決める 依頼	<input type="checkbox"/> 準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 避難先者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input type="checkbox"/> 準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input type="checkbox"/> 避難所準備
避難スイッチ (L3 もしくは)			<input type="checkbox"/> 避難所開設
<input type="checkbox"/> 避難の希望をかた者に伝える <input type="checkbox"/> 貴重品の準備	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け <input type="checkbox"/> 貴重品の準備	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け <input type="checkbox"/> 車の準備(担当:)	
<input type="checkbox"/> 荷物を持って玄関で集合を待つ (居室から玄関まで)分)	<input type="checkbox"/> 避難開始	<input type="checkbox"/> 避難開始	
<input type="checkbox"/> 避難終了	<input type="checkbox"/> 避難完了も共有(災害用伝言ダイヤル1717)	<input type="checkbox"/> 避難完了も共有(災害用伝言ダイヤル1717)	
L4 避難勧告・避難指示			
L5 避難発生			

※ □にチェックがつかない場合は、誰が実施するのか決めておくこと

マイ・タイムラインとは：

災害が起こりそうなとき、自分がいつ、なにをするか整理した行動計画

みんなで避難を考える

地域連携型
要配慮者マイ・タイムライン
(個別避難計画)

～作成ヒント集～

いざという時は、
みんなで声をかけあっ
て
避難しよう！



今とこれから

- 地域の一員となる
- 自分たちだけでは命を救えない
- 極めて具体的に災害をイメージして、対策を考えると、

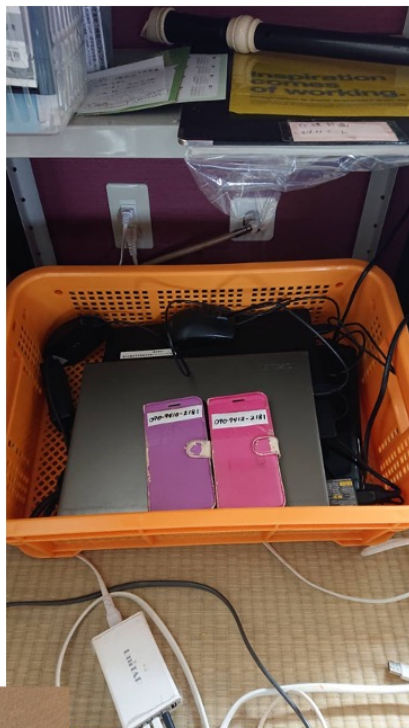


日頃から、地域の方々とつながって、
助けてと言い合える関係性を作る
それが、事業継続には欠かせない

事業所内

避難グッズの準備

パソコン等一括収納



地域の方へ依頼

車の避難場所

介護の手助け

畑の野菜ちょうだい

